

◎**今週の御言葉** 「復活されたキリスト」(イザヤ書55章1節～11節、マルコの福音書16章1～8節) 「そのように、わたしの口から

出るわたしのことはも、むなく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。」(55:11)

「驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められた所です。」(16:6)。

◎ 私たちにとって愛し、愛されている存在の方を失った悲しみと絶望の深さは計り知れません。そこから救い出される道はあるのでしょうか？

◎ イザヤ書55章の主題は「神の救いについての預言」の最後「恵みへの招き」で、神の恵みを受けよとのメッセージです。神様が約束されたメシヤがやがて現れ、ダビデの王位を継承し、永遠の御国を統治すると

の契約を結び(Ⅱサムエル7:12-14)、神様が祝福を備えて下さるのです。神様の御心はご自分の子どもたちが乾き、空腹でいるのを黙って見てはおられない。だからみもとに招かれるのです。「罪人は神に見捨てられる」、これが人間の常識です。しかし神様の道は全く異なる。人間が悔い改めて神様に立ち返るなら、神様は無条件で赦し受け入れて下さる。主の寛容と愛は人の思いをはるかに越えているのです(6-13)。

◎ マルコの福音書16章の主題は「復活」(16:1-8)で、平行記事はマタイ28:1-8、ルカ24:1-10、ヨハネ20:1-8です。

◎ マルコ16:9-20節は、付加された末尾です。特に、9-14節は「復活の主の顕現」で、①9-10節、マグダラのマリヤへの顕現(ヨハネ20:11-18)、②12-13節、エマオ途上の2人の弟子への顕現(ルカ24:13-35)、③14節、集まっていた11弟子への顕現(ルカ24:36-43)、④15節、世界宣教の使命(マタイ28:19-20)、⑤16節、弟子たちに、使命と共に神の国の権威を与えられた(マタイ10:40,16:19)、⑥17-18節、「しるし」に関しては使徒の働きに見られる。⑦20節、宣教命令が実行された時、約束がその通り実現したのです(使徒の働き)。

◎ 主イエス様の復活を恐れた祭司長、パリサイ人はピラトの許可を得て石に封印をし、番兵に墓の番を命じたのです。そのような状況で主イエス様は復活されたのです。神様は人間的に不利な条件の中にも御業を顕わされる御方なのです。

◎ 最初に主イエスの復活の事実を伝えられたのは、香料を買い墓に来たマグダラのマリヤや婦人たち(ヤコブの母マリヤやサロメ)です。女性たちの心配「墓の入口からあの石をころがしてくれる人が、だれかいるでしょうか」にもかかわらず、ちゃんと主が備え(3,4)、しかも思いがけない知らせが待っていたのです(5-7)。しかし女性たちは「墓を出て、逃げ去った。震え上がり、気も転倒して、だれにも何も言わなかった。恐ろしかったから」と8節には、女性たちの困惑の大きさを伝えているのです。

けれども復活の事実を弟子たちに伝言するように委託された女性たちは弟子たちに証言した。そのことを聞いても信じようとしなかった弟子たちにも、復活の主イエス様はご自身を顕し、宣教を委託されたのです。